

東雲

首里東高校通信



第65回全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会

上記大会が8月19日(水)～21日(金)で岩手県産業文化センター、盛岡市アイスアリーナ、他でありました。今回は会長徳留氏、校長儀間の二人で参加しました。20日(木)、21日(金)は大会、22日(土)は岩手教育視察(南三陸プログラム)です。天候は少々雨は降りましたが、全体的に曇り空で朝夕は肌寒く感じました。

全体会と7種の分科会があり、私は第1分科会の「学校教育とPTA」に参加しました。大会前や昼食時間等にはアトラクションがあり、地元の高校7校、県立大学1校が吹奏楽や郷土芸能関連を披露していましたが、すべてに迫力があって圧倒され見入ってしまいました。



基調講演 芝浦工業大学学長 村上雅人氏 「夢高くして足地にあり The sky is the limit」

資源に乏しい国である日本が、世界の中で輝き続けるためには科学技術立国しかありません。そして、それを支えるのは、若い人たちなのです。先人たちが築いてきた日本に根づく「ものづくり」の伝統を継承し、さらに発展させていくことが大切です。だからこそ、教育は崇高であり、社会の礎となるのです。

「ものづくり」は金もうけにならないというひともいます。しかし、ひとは、物欲や金で満足することはありません。人生を豊かにするのは「夢」であり、そして、自分の為すことが社会の役に立っていると感じるとき、安寧が得られるとされています。

そして、もうひとつ重要なものは知の探求です。人類は、無知を嫌い真実を求めてきました。ものには限りがありますが、頭で考えることには限りがありません。まさに、The sky is the limitなのです。地球は宇宙の中のちっぽけな存在です。しかし、そこに住むわれわれには無限の可能性があり、これを享受できることが、人類の至高の喜びなのではないでしょうか。



南三陸の被災地を訪れました。まだまだ地固めの最中でありまったく復興には至っていません。案内の方の涙ながらの説明に心が痛みました。皆さんがこの地を訪れ我々と会話をしてくれることが一番の支援です。今の苦勞が20、30年後「あのときは辛かったね」と話せるときに私たちの復興ですと語られていました。

記念講演 映画監督 大友啓史氏 「アドリフを生きる力」

映画監督というすべてのことをコントロールして撮影しているかのように思われますが、決してそうではありません。常に天気や時間などあらゆるコンディションとの戦いにつきまとい、ハプニングとどう付き合っていくかに始終頭を悩ませることになります。ただ、そんな思いがけないところから生まれてくるものが、実は作品に一番大きな魅力を与えてくれる場合があります。100人単位で作る総合芸術の中で、アクシデントすら楽しみ、それを作品としての力に変えていくアドリブ力をどう蓄えていくのか、豊富な現場エピソードの中からお話がありました。

第1分科会全国高P連研究発表 第1部(講演) 京都大学大学院医学研究科准教授 木原雅子氏

高校生を取り巻く現状を独自の全国調査を基にグラフ等によりわかりやすくまとめ「大人の本気度が問われる」ことを力説しました。いくつかまとめると、○母親との関係に満足していない生徒のスマホ依存は9倍。○親との会話が少ない生徒のスマホ依存は3倍。○スマホにはまるほど学力は低下する。○先生が頑張り気づいてくれないほど学力が低下(3倍)。○親との会話が少ないほど自尊心(自己肯定感)が低下(3～6倍)。○自尊心が低い、将来への意欲がないほど学力が低下。等とありました。

第2部(シンポジウム)

木原氏をコーディネーターとして5人の代表者とのシンポジウムの後、会場の参加者とのコミュニケーションがありました。その話題はほとんどスマートホン使用についてであり、全国的に同様な状況があることを知りました。以下は会場等からの主な意見です。○大人は先回りし過ぎて障害を取り除いたりすることにより、「指示待ち」の子どもを作っているのではないか。○子ども達自身でスマホのルールを決めさせることが大事。○子ども達自身でスマホのルールを決めるには限界がある。○国や県はスマホについて厳しいルールを法令化するべきである。○スマホ被害にあったときの対応策を指導して欲しい。○親は子ども達を育てるためにもっと真剣になるべきではないか。等